



◎道路功績者の表彰

本會道路功績者表彰規程に依り左の通表彰し、關係地方廳にそれぞれ傳達方を依頼せり

△昭和十六年三月十三日表彰

表彰狀 群馬縣佐波郡三鄉村道路愛護會

同 同縣 北樂郡岩平小學校道路愛護會

同 同縣 勢多郡木瀬村道路愛護會

同 同縣 利根郡薄根村道路愛護會

△昭和十六年三月二十二日表彰

表彰狀、一等功績章、三ツ組木杯愛知縣修路工夫平 松 乘 十

表彰狀、二等功績章、單杯 同 足立勘五郎

同 同 同 同 城 恒 一

同 同 同 同 石川 角藏

表彰狀 愛知縣八名郡八名村字理少年自警團

同 同縣 東春日井郡坂下尋常高等小學校少年赤十字團

同 同縣 西加茂郡藤岡少年赤十字團

△昭和十六年三月二十五日表彰

表彰狀 奈良市五條町大日本國防婦人會都跡分會五條班

△昭和十六年三月二十七日表彰

表彰狀、二等功績章、單杯 德島縣修路工夫 原 田 角 藏

同 同 同 同 森 八 百 藏

同 同 同 同 大 島 恒 三 郎

同 同 同 同 重 本 庄 藏

同 同 同 同 柿 本 源 太

同 同 同 同 長 尾 圓 次 郎

同 同 同 同 長 尾 一 太

◎本會監事西野元氏 勸銀總裁石井光雄氏は來る十一月任期満

了を機に勇退し後任には現十五銀行頭取、元大藏次官西野元氏を起用することになつた。

◎幹事淺香小兵衛氏

内務省土木事務官淺香小兵衛氏は客年夏以來手篤く療養を加へられたが、遂に三月十日死去せられた。

◎内務省土木試験所談話會

第二百十六回技術談話會話題

昭一六、三、二八 午後一、三〇——四、〇〇

一、積雪に關する 二、三の實驗 特に電氣抵抗値に就て

(二〇分) 島田 技師

二、雪上自動車走行試験結果に就て(三〇分) 藤森 技師

三、單働調壓水槽に關する研究(一)(三〇分) 横田 技師

四、風と波の高さに就て (二〇分) 佐藤 技師

五、港灣構造物の設計示方書特に防波堤設計示方書に就て

(二〇分) 松尾 技師

◎道路功績者表彰式概況 滋賀縣道路功績者に對する道路改良會表彰狀傳達式は紀元の佳節たる二月十一日午前十時より縣正廳に於て他の各種功勞者表彰と同時に執行、知事代理沖森總務部長より縣表彰に依る修路工夫、愛護團體等に對し表彰狀授與の後

道路改良會表彰に依る修路工夫安田竹治郎、井上甚太郎、石田久與、岩井春次、福田治三郎に夫々功績章並木杯を、甲賀郡件谷村

道路愛護會、坂田郡神田村道路愛護會、東淺井郡上草野村道路愛護會、高島郡馨庭小學校道路愛護會に表彰狀を夫々傳達、次で紀元二千六百年道路法施行二十周年に當り道路行政功勞者並に愛護團體に對し水野會長より贈與せられたる表彰狀、記念品(扁額

は縣支部に於て表装す)を傳達の上沖森部長より、一場の挨拶あり。受者代表者答辭を陳べ午前十一時半閉式せり、當日表彰の個人は因より、團體代表者も今回の表彰にいたく感激し將來一層道路改良の爲努力せんことを宣誓する所ありたり。

◎近刊圖書雜 (寄贈交換)

◎電氣通信學會雜誌(第二一五、第二一六號)

◎警察協會雜誌(三月號)

◎水利と土木(第一四卷 二、三號)

◎土木雜誌(第一七卷 三號)

◎建設(一二月號)

◎鑿國精神(紀元二千六百年改題)(三月號)

◎地方行政「日文版」(第八卷 三號)

◎セメント界彙報(第三九五、三九六號)

◎都市公論(三月號)

◎都市問題(第三二卷 三號)

◎法律時報(第一三卷 三號)

(内田源兵衛氏)國防國家の建設と經濟團體の役割

◎土木工業(第三卷 二號)

◎土木滿洲(第一卷 一號)

(瀨戶政章氏)自動車專用道路の設計——特に線形理論

◎石油時代(二、三月號)

○大阪商工會議所月報 (二、三月號)

○鐵道軌道經營資料 (二、三月號)

○東大陸 (三、四月號)

○汎交通 (二三月號)

(戰時下獨逸の自動車交通政策)

○自警 (二、三月號)

○觀光 (第九卷 一號)

○土木學會誌 (第二七卷 二號)

○清和 (第八卷 二號)

○斯民 (三月號)

(伊藤日出登氏 國民學校令に就いて、戸嶋芳雄氏 農地開發

法の概要、熊谷憲一氏 住宅營團に就て)

○土木工業 (第三卷 第三號)

(北ダモタの安定砂利道路、コロンビヤ河橋梁の最上工事、國

防と工事界)

X

X

X

X

雜吟 鏡石

行春や夜汽車に寒き膝がしら
 店頭に雜果乏しき暮の春
 夏近し果樹園の風窓に知る
 立ち枯れと見えにし棕櫚や暮の春
 蒔くに足らぬ日陰の庭や暮の春
 入學を嬉れしと母や春惜しむ
 行く春や高樓の陰に青木の實
 爐の名残り亡母の忌日迫り來る
 老ひて尙健脚ほこる日永人
 よく教へよく談る師に日永かな
 温泉出で窓に淵見る春の雲
 堀る鉄の地熱に蟲や夏近し
 パス降りて近か道するや豆の花
 蒲公英や首塚あたり廣ろくと
 椿色あせて石段に雨のひやかな
 遠足やお玉杓子を談り種